

第5 A分科会 研究課題「教職員の専門性に関する課題」

研究主題「ICTに関わる校内研修を推進するための教頭の関わりはどうあればよいか」

～コロナ禍の制限下における無理のない取組を通して～

提言者 延岡支会 延岡市立岡富中学校 上中別府利一

1 主題設定の理由

延岡市中学校教頭会では、昨年度、主題研究をより円滑に進めていくために、教頭としてどのように関わっていくことが効果的かというテーマで研究を行った。

新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度から、GIGAスクール構想の具現化が、リモート授業などの必要性が求められたことにより、前倒しして進められ、全ての学校で対応を求められている。また延岡市では、時を同じくして校務支援システム「C4th」の導入も始まった。いずれも、準備が十分ではないままスタートしてしまい、専門性や経験に個人差がある中で、職員には大きな負担感を感じる人が多い現状がある。

そこで本年度は、それぞれの学校で取り組むICTに関する研修において、教頭としてどのように関わっていくかをテーマとして設定し、実践を通して振り返り、今後の手立てについて研究を行うこととした。

2 研究のねらい

ICTに関する職員研修において教頭の関わりを通して教職員の専門性を高めていくにはどのような手立てが効果的であるかを研究する。

3 研究の概要と成果

(1) 研究仮説

ICTに関する職員研修における情報交換を通して、他校の取組を参考にして、自校の実態に応じた工夫・改善を行うことで、一層の充実を図ることができるであろう。

(2) 研究実践

ICTに関する職員研修を充実させていくための教頭としての関わり方という視点でアンケートを実施し、集約する。

4 研究の実際

(1) ICTに関する現状分析

① 本市の概要

本市における情報セキュリティは非常に厳重であり、安全性は担保されている。そ

の反面、新たなソフトウェアの導入について、迅速に対応できなかつたり、PDFファイルの閲覧に関して不具合が発生することが多かつたりして、職員の間でも苦勞している現状がある。

また、職員のICTに関するスキルに関しては、大変個人差が大きい。本校では、十分に活用ができる高い技能を持った職員はほとんどいない状況である。

そして、通信環境の不安定さが大きな問題である。本校でも、今まで使用していた校内LANと、新たなGIGAスクールの回線は独立しているが、そのどちらの回線も、それぞれに不安定になることがある。多くの場合、その原因を職員で特定することは難しく、その場合、教育委員会や業者と連絡を取り合って対応することになるが、授業や業務に大きな影響が出てしまうことになる。そして、本来構築される予定であった第3の回線であるC4th用の回線については、現在のところ情報が全くない状態である。

そのような現状を踏まえつつ、タブレット利用に関わるSNS等のリスクもあるが、これからの社会を生き抜く生徒を育成するためには、ICTに関する職員のスキルの向上を図り、それらを活用した指導の充実を図っていくことは急務である。

② 本校の現状【ICT機器の整備状況】

機種名	生徒	職員
	333名	31名
クロームブック	253台	18台
ウィンドウズアローズ	80台	13台
総数	333台	31台



ウィンドウズアローズ
以前から整備されていたものを利用している。
基本ソフトはwindows10



クロームブック
基本ソフトは Google Chrome。印刷やデータ共有が難しい。

現在は、仕様の異なる2種類の端末を使用する必要がある。また、職員用のクロームブックは、令和4年度の11月にやっと整備されたような状況である。

(2) 各校における研修の実践

- ① 令和4年度に実施した全職員を対象としたICTに関する研修は、3、4回という学校がほとんどであった。
- ② ロイロノートに関する研修
 - 全職員がロイロノートを活用して研究授業を実施するように計画した。個々の職員の疑問点を解消することができ、共通の話題を通して、職員間の人間関係が深まった。
 - ロイロノートを使って延岡のキャッチコピーを作成する研修を実施した。具体的な流れが理解できたことにより、授業で使ってみようという意識を高めることができた。
- ③ Google Chromeに関する研修
 - Classroomに関する研修を実施したが、色々な機能があることを理解することはできた。
 - 教頭が行うサービスに関する研修を、Jamboardを活用して実施した。実際に使用することで、その後の授業で職員が活用するようになった。
 - Meetを使用したオンライン学習の研修を実施したことで、一部の職員に負担がかかることなく、全職員でリモート授業の準備をすることができた。
- ④ 校務支援システムC4thに関する研修
 - 不具合が発生した時の対応窓口として、教頭が対応にあたることが多いが、こちらが希望する機能がなかなか反映されにくいという現状がある。研修が十分でないため、機能を十分活用しているとはいえない。
 - 年度の初めに、出席簿や成績処理に関して研修を実施した。必要最低限の確認を行うことはできた。

⑤ Qubenaに関する研修

- 具体的にワークシートの作成、活用についての研修を実施した。関連して今後はメグビットの活用について研修を実施して行く必要がある。

⑥ その他

- ファイルのパスワードのかけ方についての研修を研修として実施した。「不祥事の今日的課題に関するチェックリスト」において、個人情報流失防止の項目でのA評価が100%になった。

(3) 本年度の取組から見えてきた現状と課題

- ① 市外から転入した職員については、年度初めに早急に個別の研修を実施する必要がある。
- ② 生徒の端末を統一し、一斉に持ち帰ることができるようにしてほしい。
- ③ タイピングのスキルを小学校と連携して身に付けさせていきたい。個人差があると、授業の進度がどうしても遅くなってしまう。
- ④ ICTの活用が効果的な場面をしっかりと見極めていくことが重要である。
- ⑤ 単発的な研修ではスキルを身に付けていくことは難しい。研修の継続性、連続性が必要である。



【どんなに充実した研修でも…】

5 今後の取組

- (1) 学校の教育的課題を解決するには、校務分掌にICTに関する分掌部を設定し、組織として推進していく体制を整えることが最も効果的である。教頭として校長に対して働きかけを行っていく。
- (2) ICT機器使用時におけるハード面、ソフト面でのトラブルについては、対応を教育委員会にお願いするケースが多い。その場合の窓口としては、教頭で統一しておくのが適切である。特に授業に支障があるケースについては迅速に対応する必要がある。